

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●エリザベス女王杯はラッキーライラックが復活V

11月10日(日)に行われたエリザベス女王杯(G I)ではラッキーライラック(牝4歳/栗東・松永幹夫厩舎)が優勝、2018年チューリップ賞以来約1年8か月ぶりとなる勝利をG Iの舞台で飾りました。ラッキーライラックは2017年JRA賞最優秀2歳牝馬に選出されており、同賞受賞馬がエリザベス女王杯を制するのは、3歳以上のレースになった1996年以降では1998年・1999年のメジロドーベルに次いで2頭目のこととなります。

●C.ルメール騎手がJRA通算1100勝を達成

11月10日(日)の5回京都4日・第2レースではエイシンガネーシャが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、史上32人目、現役では16人目となるJRA通算1100勝を達成しました。5454戦目での1100勝達成で、これは野平祐二元騎手の5742戦を更新する史上最少騎乗回数での達成となります。

●モーニンの競走馬登録抹消

2016年フェブラリーS(G I)や2018年コリアスプリント(韓国G 1)などの勝ち馬モーニン(牡7歳/栗東・石坂正厩舎)は、11月7日(木)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績19戦7勝・地方8戦0勝・海外1戦1勝で、今後は種牡馬となる予定です。

●ジャパンカップ当日は「ディーブインパクトメモリアルデー」

ジャパンカップ(G I)当日の11月24日(日)は「ディーブインパクトメモリアルデー」として開催されることとなりました。ジャパンカップに「ジャパン・オートムインターナショナル ロンジン賞 ディーブインパクトメモリアル 第39回ジャパンカップ(G I)」と副題がつけられるほか、東京競馬場と京都競馬場では、表面にディーブインパクトの肖像、裏面に同馬の優勝競走(全12競走)の写真をレイアウトしたメモリアル投票券が発売されます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●昨年の年度代表馬キタサンミカヅキ(船橋)が引退、種牡馬に

JRAでデビューし、船橋移籍後に東京盃(Jpn II)2回、東京スプリント(Jpn III)に優勝、NARグランプリ2018で年度代表馬に選ばれたキタサンミカヅキ(牡9歳、父キングヘイロー)は、11月5日付で登録を抹消され、北海道新冠町の優駿スタリオンステーションで種牡馬入りすることになりました。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田の結果

2019ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田は11月6日に実施され、第1戦は本木直騎手(兵庫)、第2戦は松木大地騎手(兵庫)と、ともに地元兵庫勢が制しています。

●ラブミーチャン記念はテーオーブルベリー【各地の主要2歳重賞】

ラブミーチャン記念(11月7日、笠松、1600^円、牝馬)は、逃げた北海道からの遠征馬テーオーブルベリー(父カジノドライブ)が後続を3馬身引き離し、単勝1.5倍の支持に応えました。サッポロクラシックC(10月24日、門別、1200^円)は、2番手を追走した2番人気のヘイセイメジャー(牡、父マジスティックウォリアー)が残り200^円を切った辺りで差し切り、イノセントCに続く重賞2連勝を達成。知床賞(10月27日、盛岡、1400^円)は、5番手前後から内を通過して差を詰めた4番人気の北海道からの遠征馬アクアリーブル(牝、父パイロ)が、4コーナー手前で先頭に立って後続を振り切りました。平和賞(10月30日、船橋、1600^円)は、4番手から4コーナーで抜け出した4番人気のヴァケーション(牡、父エスポワールシチー)が2馬身半差の完勝を収めています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1 マッキノンS~マジックワンドがG 1 初制覇

11月9日にオーストラリアのフレミントン競馬場で行われたG 1 マッキノンS(3歳上、芝2000^m)は3番手でレースを進めたアイルランドからの遠征馬マジックワンド(牝4歳=現地年齢表記5歳、父ガリレオ、A.オプライエン厩舎)が直線半ばで地元のハートネルを交わして先頭に立つと、最後はニュージーランド年度代表馬で、前走のG 1 エンパイアローズSを含むG 1・4連勝中だったメロディベルの追い上げを1馬身差退けて優勝。キャリア21戦目にして初めてのG 1 勝ちを収めました。なお、このレースには日本から2頭が出走。後方2番手から差を詰めたスズカデヴィアスが勝ち馬から5馬身差の7着、4番手を追走したクルーガーが同じく5.4馬身差の8着に入っています。勝ったマジックワンドは昨年6月のG 2 リブルスデールS(芝2390^m)で重賞初制覇。その後はベガスワールドCターフ2着、アーリントンミリオン2着(以上、勝ち馬ブリックスアンドモルタル)、アイリッシュチャンピオンS 2着(勝ち馬マジカル)などG 1 で6度の2着と勝ち切れず、今回のオーストラリア遠征でも10月26日のG 1 コックスプレートがリスグラシューの4着、前走11月5日のG 1 メルボルンCも10着に終わっていましたが、中3日で臨んだ今回、大輪の花を咲かせました。